

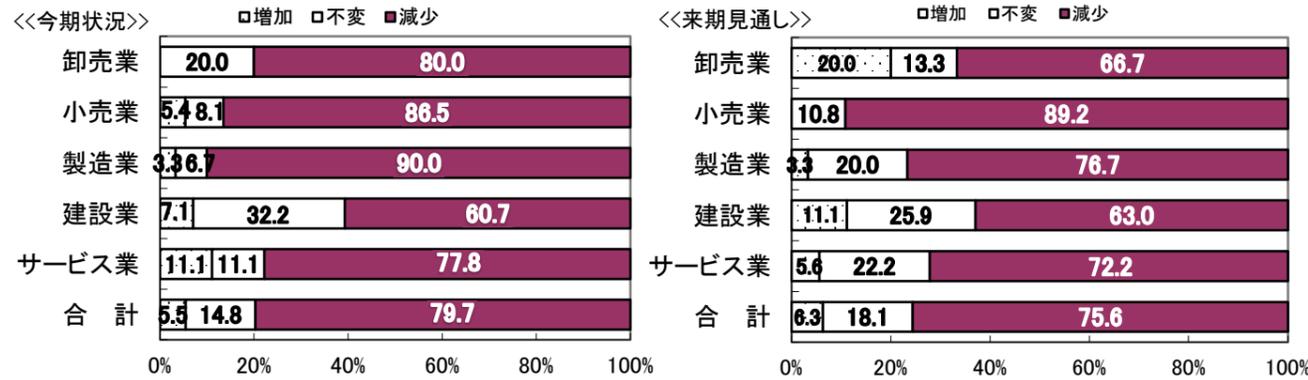
4月～6月期 会員景況調査結果

速報版

調査協力企業用

- ◇ 調査対象 小千谷商工会議所の会員企業の中から、卸売業・小売業・製造業・建設業・サービス業を対象に実施した。
- ◇ 調査対象期間 令和2年4月～6月期の実績及び令和2年7月～9月期の見通しについて調査した。
- ◇ 回収状況 134 企業中、128 企業より回答を得た。(回答率 95.5 %)

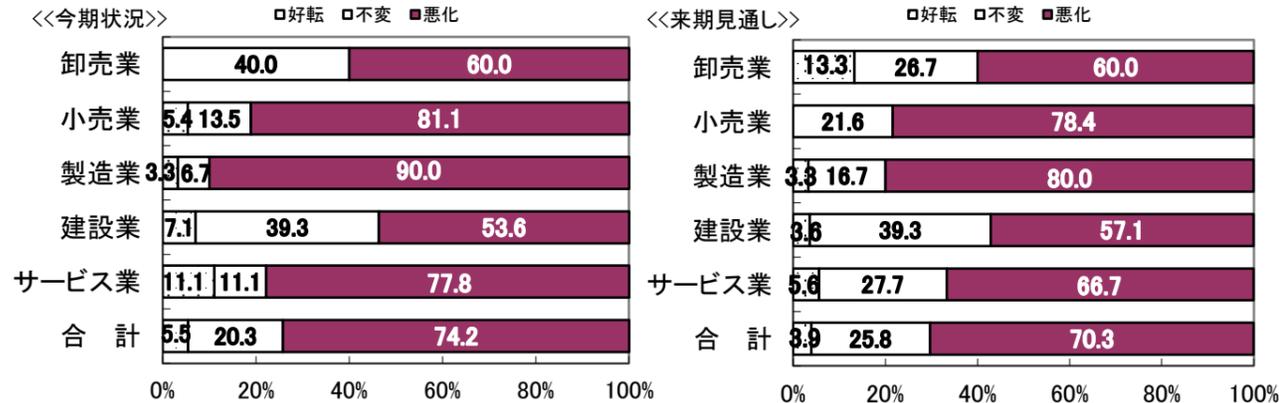
1. 売上高の動向(対前年同期比)



全業種平均DI値は▲74.2%となり、前回調査に比べてマイナス幅は11.6P拡大した。今回も全業種でDI値がマイナスになった。中でも卸売・小売・製造の3業種でDI値が▲80%台となり厳しい状況である。全業種で前回調査の過去最大の「減少」を上回る回答となり、非常に厳しい現状となった。

今期に比べ、小売業を除く業種で若干の「増加」回答があったものの、全業種で「減少」回答が大半を占め、今期よりは良くなるものの、引き続き各業種とも「減少」及び「不変」が大半となり、相変わらずDI値はマイナス傾向にあり、先行きの不透明感が強い見込みとなった。

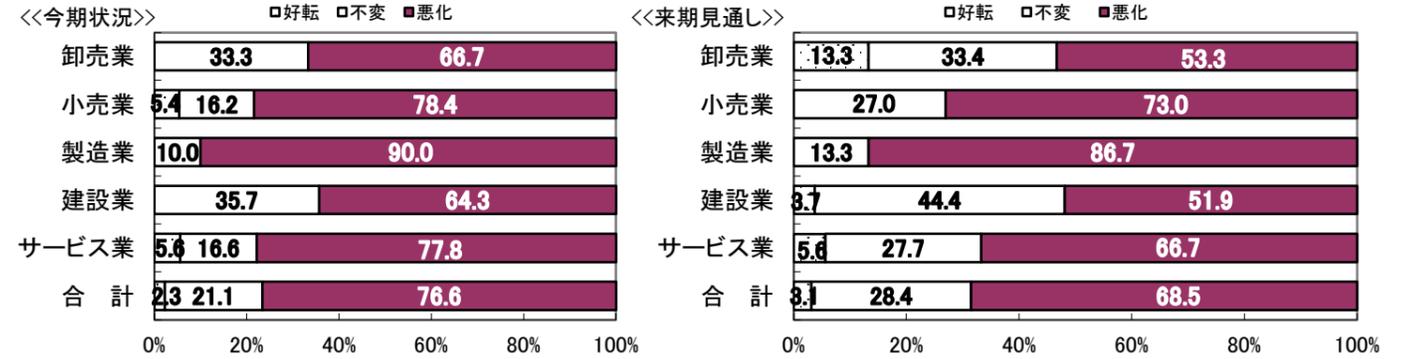
2. 経常利益の状況(対前年同期比)



全業種平均DI値は▲68.7%となり、前回調査に比べてマイナス幅は7.8P拡大した。今期は全業種で前期DI値差との比較でマイナス幅が拡大した。卸売業では「増加」と回答した企業は1社もなく、全業種平均DI値を悪化させている。各業種ともDI値は、「好転」と回答した企業が少なく、「悪化」とするとの回答が殆どとなった。全業種において厳しい現状の結果となった。

全業種でDI値がマイナスとなった。全業種平均値での「悪化」回答70.3%となり、来期も厳しい状況が今後も続く見通しとなった。小売業と製造業では、「悪化」の割合が高く、全体のDI値を下げている。今期に比べ全体的には回復傾向にあるが、新型コロナウイルスの状況によっては、より厳しい状況は継続しそうでである。

3. 自社の業況(対前年同期比)



全業種の平均DI値は▲74.3%となり、前回調査に比べてマイナス幅は17.4P拡大した。製造業では「悪化」回答が90%となり、厳しい業況となった。食料品小売や生活関連サービス業で若干の「好転」が見られたものの、全業種でマイナス幅が拡大し、景況感は良くない結果となった。

全業種の平均DI値は▲65.4%となり、全業種とも「悪化」傾向が強い結果となった。卸売業では「好転」の回答が13.3Pあるが、それでも先行きは厳しい結果となった。小売業と製造業の「好転」回答は無かったが、「不変」回答が多かったことで今期比較では改善される見込みであるが、今後も厳しい状況となる見通しで、油断できない状況となった。

4. 業種別概況

| 業種 | 業種概況 |
|-------|---|
| 卸売業 | ◆食料品卸では、コロナ以上に異常気象による野菜価格暴落の影響が大きい！ 食料品卸売業では、学校の再開や長く続く巣ごもりの影響で、仕事量としては回っているとのことだが、昨年から続く異常気象で大豊作の野菜の価格が暴落し、売上額の伸び悩みが見えるとの声があった。酒類卸業では、新型コロナウイルスの影響により業務店が休業や自粛で、大打撃を受けたとの声。6月に入り再開の店舗などが増えたが、低調に推移している。第2波が来ないでほしいとの切実な願いが聞かれた。 |
| 小売業 | ◆緊急事態宣言に伴う来客数の減少！！今しかできないことをやる前向きな意見も！ 衣服店では、自粛の影響で来店数激減、取引先の倒産により商品手当が出来ず、東京・京都方面問屋も催事中止延期等仕入面でも非常に深刻との声。また、生花店では春延期になったイベント等の予約が秋に変更となったが、既にキャンセルが出ている状況で業界全体が静かとなった。しかし、今まで出来なかった勉強をしたり、店内の整理・改修などをスタッフと共に頑張っているとの声が寄せられた。一方、飲食業では、6月に入りお客が動き始めているものの低調との声があった。 |
| 製造業 | ◆景気停滞からのコロナウイルス・・・先行きが大いに不安 新型コロナウイルスや、景気の影響で大口の受注が滞っており、新規の受注も思った通りに入らない状況が続いているとの声。また、ゴールデンウィーク後に急激に受注が減った。8月は全く見通しがつかないとの声が寄せられた。今後のアフターコロナの変化に対応出来るように準備をしているとの声もあった。その他、リーマンショックの方がまだ良かったとの声も寄せられた。 |
| 建設業 | ◆コロナウイルスの直接的影響が出始めてきた 建築業では、コロナウイルスによる先行き不安の影響で、消費者の購買意欲が低下し、心理的不安により、新築住宅の数が増えないことが予想される。設備工事では工事の延期や中止が相次いでおり、社員のモチベーションの低下などを懸念している。しかし、今後この状況が続くようでは、社員数をこのままでもいいのかなど悩むところであるとの声が寄せられた。建設業では、暖冬による少雪で除雪作業がなく決算に影響するとの声が寄せられた。 |
| サービス業 | ◆観光行事などの中止による影響が計り知れない・・・ 祭りやイベントなどこれから稼ぎ時となる時期だけに、その分の収入が見込めないことは、過去経験したことがない。観光を生業としている業種においては今後が難しい判断であるとの声が寄せられた。自動車関連では、移動制限や自粛の影響で4～5月は販売・整備において全て低調だったが、6月後半から動き出してきたので、僅かながら光が見えてきたと明るい声も聞かれた。一方で飲食関連業種では、宴会数などが戻らない中、コロナ第2波が来たらと先行きを不安視する声があった。 |

DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向の回答割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向の回答割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の

$$DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)$$

本調査結果[速報版]を当所HPIに掲載しております。次回調査は9月の予定です。今後ともご協力をお願い致します。